

危機を乗り越え、

共に創る「いわき新時代」

令和三年新春市長記者会見を一月五日に、市役所で行いました。清水市長は、年頭所感として、危機事象への対応や今後の市政運営などの考え方を明らかにしました。



清水市長は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と社会経済活動を維持するため、市独自の取り組みを報告し、令和元年東日本台風などへの対応として、単なる復旧にとどまらず、被災前よりも安全・安心なまちを築き上げるため、全力で取り組んでいくと述べました。

「暮らしを守る安全・安心」「ひと・まち・しごと」「共創力」について、考えを明らかにしました。

市政運営について

防災・減災に努めることはもとより、災害を克服していく「レジリエンス（強靱性）」、いわゆる、しなやかな回復力や復元力を備えた、まちとしての総合力が今まさに求められており、これは、コロナ禍を乗り越えることにも通じ、ウィズコロナやアフターコロナを意識したまちづくりを進める上でも重要です。そのため、新たな社会の姿である「超スマート社会」の具現

への対応に努める中、五月にオープンした「いわき震災伝承みらい館」を拠点に、震災の記憶と教訓をしつかりと後世に引き継いでいくと述べました。

人口減少が進み、厳しい資源制約下にあっても、多様な主体が力を合わせ、新たな技術や価値観を戦略的に取り入れることにより「住んで良かった、住み続けたい」と思えるふるさとの「いわき新時代」を築けるよう、今後の市政運営に取り組んでいきます。

暮らしを守る安全・安心の充実強化

日々の暮らしから危機事象への対応まで、幅広く安全・安心を確保するための取り組みを進めていきます。

ひと・まち・しごとの充実強化

技術の進展や価値観の多様化を的確に捉えながら、情報通信技術の積極的な活用をはじめ、本市の活力につながるような攻めの取り組みを実施していく必要があります。人口減少の影響を最小限にとどめるため、本市の優位性を高めながら将来にわたってまちの活力を維持していく取り組みを、ひとづくり・まちづくり・しごとづくりの三つの観点から進めていきます。

共創力の充実強化

市民と行政の一体感・共創力を高めるため「以和貴まちづくり基本条例」に掲げる「市民参画」「情報の共有」「連携」の三つの基本原則に基づき、共創のまちづくりを進めていきます。

暮らしを守る安全・安心の充実強化

○東日本大震災への対応

- ・津波被災地域のコミュニティの再生を支援するため、被災者支援の推進や、空き地バンクを活用した被災沿岸地域への定住を促進
- ・廃炉・汚染水対策の安全かつ着実な推進や、風評払拭への取り組み・適切な損害賠償の実施について、国および東京電力に対する要望を実施
- ・国際教育研究拠点について、本市の高等教育機関や産業・都市基盤との連携ができる枠組みとなるよう国・県への働きかけを実施

○危機事象への対応

- ・危機管理体制の充実強化を図るため、危機管理部を新設
- ・消防力の強化を図るため、消防職員の定数を増員
- ・内郷消防署の移転改築のため、地質調査などを実施
- ・感染症対策など避難所の環境整備を強化
- ・道路の冠水被害対策を5年間で集中的に実施

○地域の課題への対応

- ・医師不足解消の取り組みを継続して推進
- ・地域社会の維持や地域資源の磨き上げを行うため、集落支援員・地域おこし協力隊を配置するほか、住民ボランティア輸送への支援を継続して実施
- ・中山間地域に光ファイバーの整備を促進するため、事業者を支援
- ・小川支所を移転整備するほか、川前支所の移転整備について調査・検討

○子育て支援・健康長寿への対応

- ・妊娠期から子育て期にわたり切れ目ない相談体制を確立するため「いわきネウボラ」を継続して実施
- ・放課後児童クラブを拡充するほか、統合保育所を整備
- ・市健康長寿百年構想の下、ウィズコロナにおけるICTを活用したモデル事業を実施

○全国に向けての魅力発信

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関連した聖火リレー、アニメ映画「フラ・フラダンス」の全国公開、全日本級別サーフィン選手権大会・オールスター競輪の開催などの機会を捉え、本市の復興の姿を積極的に発信
- ・全国の港湾関係者が参加し、本市で開催される日本港湾協会定時総会において、震災前にも増して復興した小名浜港をPR



田人・三和地区で平成31年から実施している住民ボランティア輸送



初夏公開予定のアニメ映画「フラ・フラダンス」(©B,F/O)

共創力の充実強化

○市民参画

- ・まちづくりの主体となる自治組織やNPO法人、各種市民団体、企業、学校などと連携
- ・まちの活力を維持するため、まち・未来創造支援事業や明日をひらく人づくり事業による支援を継続

○情報の共有

- ・ソーシャルネットワーキングサービスの充実・強化を図るため、市公式LINEの機能を拡充
- ・市内の文化財や文化関連施設の収蔵品を一元的に紹介するデジタルミュージアムの整備に向けた調査を実施
- ・公民館の活動などをインターネットで配信

○連携

- ・地域の特性を生かしたまちを、地域自らがつくりあげることができるよう域内分権を推進
- ・まちづくりの拠点となる支所や公民館の機能の充実強化に向けた検討を実施



無料アプリLINEで市政情報やイベント情報、災害関連情報などを発信

新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

「誹謗中傷・差別」ではなく「思いやり」を

市民生活課市民生活係 ☎22-7446

同感染症の感染者や関係者、医療従事者などに対する誹謗中傷や差別、個人を特定する行為が全国的に見受けられます。県では、同感染症に関する誹謗中傷などの防止を呼び掛けるとともに、共感の輪を広げるため、市民の皆さんの優しさや励ましの気持ちをハートにして届ける特設サイトを開設しました。「優しさは、心を結ぶ。」を合い言葉に同感染症を乗り越えましょう。

○相談窓口

- ♥新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷等被害の相談窓口 (☎024-521-8647)
- ♡みんなの人権110番 (☎0570-003-110)
- ♡子どもの人権110番 (☎0120-007-110)
- ♡女性の人権ホットライン (☎0570-070-810)
- ♥外国語人権相談ダイヤル (☎0570-090-911)
- ※開設時間 (♥=月~金曜日、9時~17時 ♡=月~金曜日、8時30分~17時15分)

福島県

お互いを思いやり、共に
新型コロナウイルス感染症を
乗り越えていきましょう。



県特設サイト動画

福祉施設などに従事される方の
相談専用ダイヤルを開設

福祉施設および接待を伴う飲食店などの従事者で、行動歴・接触歴から同感染症への不安があり、無症状の方の検査相談を電話で実施しています。

- ▶開設期間 ~ 3月31日(水)
- ▶開設時間 月~金曜日(祝日を除く)、13時~16時
- ▶お問い合わせ ☎27-8596



ひと・まち・しごとの充実強化

○ひとづくり

- ・生徒会長サミットやいわき志塾などの取り組みを通して地域を支える人財を育成
- ・小・中学校の全教室にエアコンを整備
- ・GIGAスクール構想の実現に向けて児童・生徒1人につき1台タブレット端末を整備
- ・奨学金返還支援を継続して推進
- ・多文化共生社会の実現に向けた課題解決と環境を整備

○まちづくり

- ・Society5.0の実現に向けた推進体制の強化を図るため、スマート社会推進課を新設
- ・地方移住の受け入れ態勢を整えるため、商工会議所やI W A K Iふるさと誘致センターなどと連携した取り組みを実施
- ・いわき駅並木通り地区市街地再開発事業を促進
- ・常磐地区における市街地再生整備を推進
- ・四ツ倉駅跨線人道橋や周辺の交通環境の整備を推進
- ・市民の皆さんの健康増進や沿岸地域の活性化につながるため、サイクリングルート「いわき七浜海道」の環境整備を拡充

○しごとづくり

- ・本社機能移転の促進など企業誘致に向けたPRを強化
- ・地域の金融機関と連携し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内事業者を支援
- ・将来を見据えた次世代エネルギー社会を構築するため、バッテリー産業を核とした地域の活性化や、持続可能な社会の実現を目指す「いわきバッテリーバレー構想」を官民が連携し推進
- ・水素利活用を促進するため次世代自動車の導入を支援
- ・東京大学先端科学技術研究センターと連携して風力関連産業を推進するための人材育成に取り組み、新たな産業や雇用を創出
- ・農業後継者の確保に向けた総合的な就農支援体制の強化を図るため、いわき地域就農支援センターを新設
- ・漁業体験や加工体験を通して知識や技術を学ぶ「おためし漁業体験プログラム」を実施し、地域ブランド「常磐もの」を発信
- ・木材の利用促進と森林の保全の両立を図る「(仮称)豊かな森づくり・木づかい条例」を制定し、地場産材の利用を促進



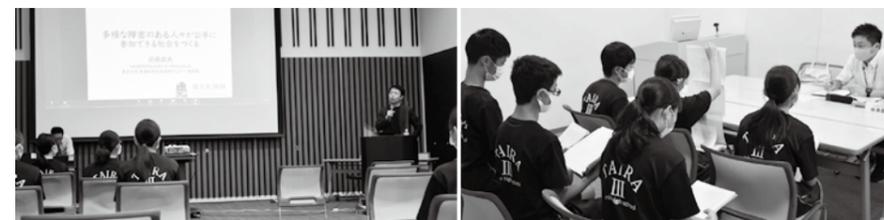
移住に関する情報提供を行っているI W A K Iふるさと誘致センター



いわき七浜海道でサイクリングを楽しむ市民の皆さん



各種展示会で本社機能移転などに向けた本市の魅力PR



東京大学先端科学技術研究センターと連携して開催した出前講座